

災害の概況と推移

火災 - Fire -



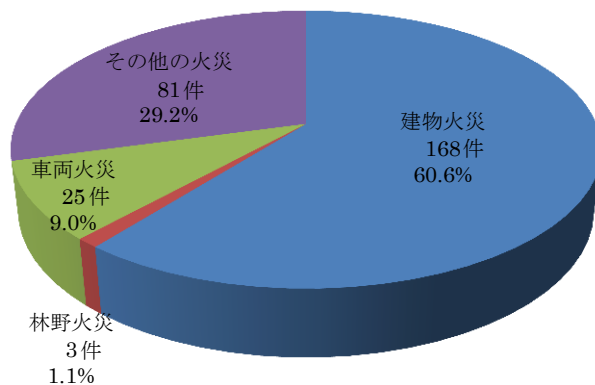
1 火災発生内訳（令和元年中）

令和元年中に広島市消防局管内で発生した火災は277件で、これにより9人の死者と40人の負傷者が発生した。また、損害額は合計で3億6,143万円、建物の焼損面積は3,690㎡であった。

火災種別で見ると、「建物火災」が168件で約6割を占めており、前年から7件増加している。また、「その他の火災」は81件で、前年から9件増加している。

区分	年別	令和元年	平成30年	増減
火災件数（件）		277	260	17
建物火災		168 (60.6%)	161 (61.9%)	7
林野火災		3 (1.1%)	6 (2.3%)	△3
車両火災		25 (9.0%)	20 (7.7%)	5
船舶火災		0 (0.0%)	1 (0.4%)	△1
その他の火災		81 (29.2%)	72 (27.7%)	9
損害額（千円）		361,434	539,614	△178,180
建物焼損面積（㎡）		3,690	4,068	△378
林野焼損面積（a）		56	399	△343
死者（人）		9	10	△1
負傷者（人）		40	49	△9

【火災発生原因の内訳】



（備考）四捨五入により各値の合計が100%となっていない。

2 過去 10 年間の火災件数等の推移

この 10 年間の火災件数の推移をみると、514 件であった平成 22 年以降、おおむね減少傾向となっている。
火災による損害額及び建物焼損面積についても、火災件数と同様におおむね減少傾向となっている。

年別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
火災件数	514	479	395	420	378	305	299	316	260	277
損害額 (10 万円)	6,003	5,163	4,940	7,898	6,359	4,488	4,905	4,742	5,396	3,614
建物焼損 面積 (㎡)	5,545	5,804	3,953	7,311	5,700	5,188	3,358	4,082	4,068	3,690
死者(人)	12	11	12	9	30	20	5	8	10	9
負傷者(人)	62	55	60	50	65	64	54	60	49	40

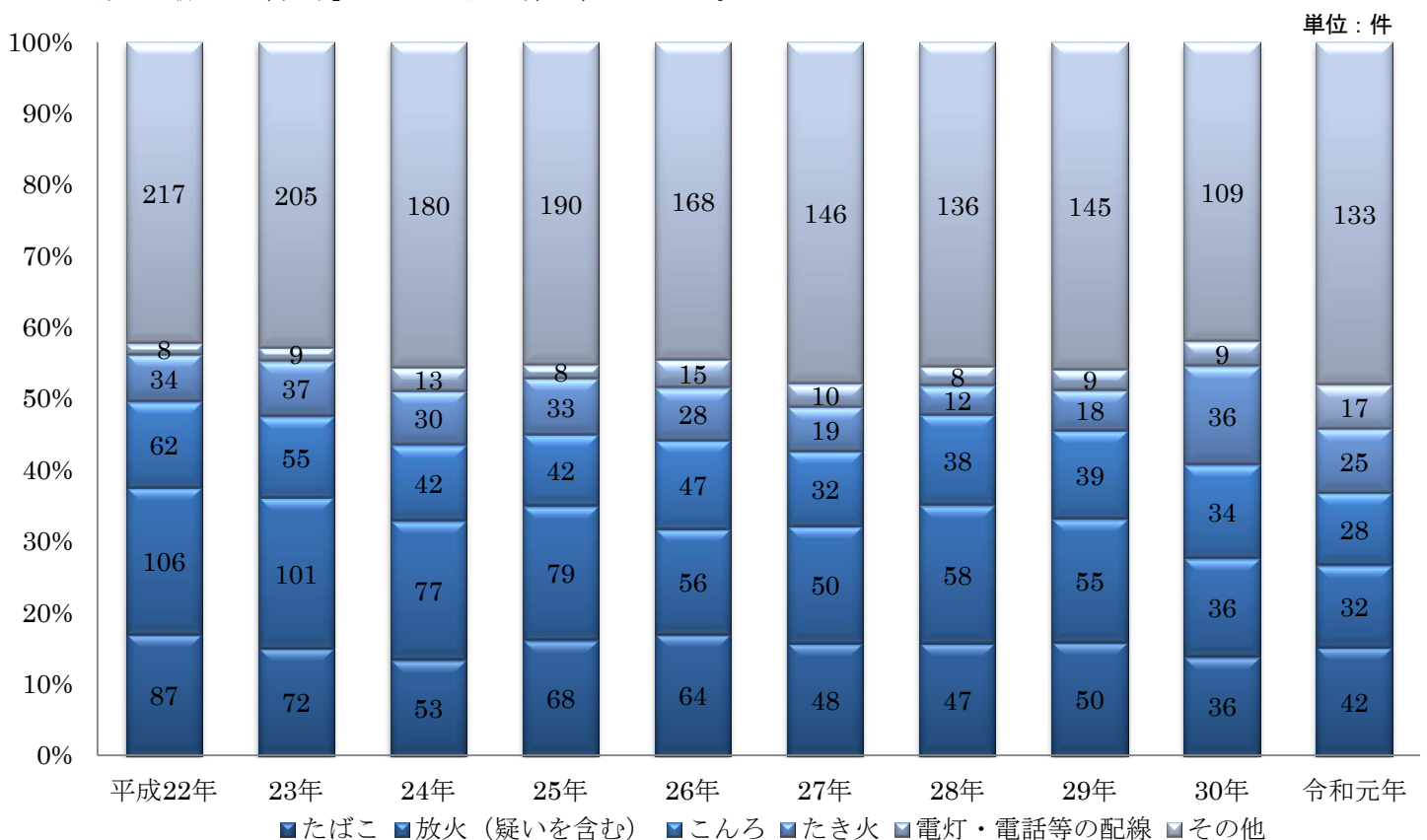
3 出火原因別火災件数 (令和元年中)

令和元年中の火災を出火原因別にみると、「たばこ」が 42 件 (15.2%) で最も多く、次いで「放火 (疑いを含む)」が 32 件 (11.6%)、「こんろ」が 28 件 (10.1%) となっている。

区分	総数	たばこ	放火 (疑いを含む)	こんろ	たき火	電灯・電話等 の配線	その他
件数	277	42	32	28	25	17	133
構成比	100.0%	15.2%	11.6%	10.1%	9.0%	6.1%	48.0%

4 過去 10 年間の火災原因の構成比

出火原因の推移をみると、「放火 (疑いを含む)」による火災は、平成 26 年を除き、昭和 61 年から平成 30 年まで出火原因の第 1 位となっていたが、令和元年は「たばこ」による火災が第 1 位となり、「放火 (疑いを含む)」による火災は第 2 位となった。



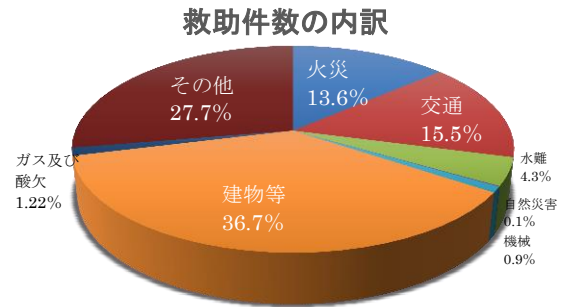
救助 - Rescue -



1 救助件数内訳（令和元年中）

令和元年中の広島市消防局管内の救助件数は、904件で、前年の1,159件と比較して255件の減少となった。

件数の内訳は、建物内への閉じ込めなどが該当する「建物等による事故」が332件で全体の36.7%を占め、続いて「交通事故」が140件(15.5%)、「火災」が123件(13.6%)となっている。

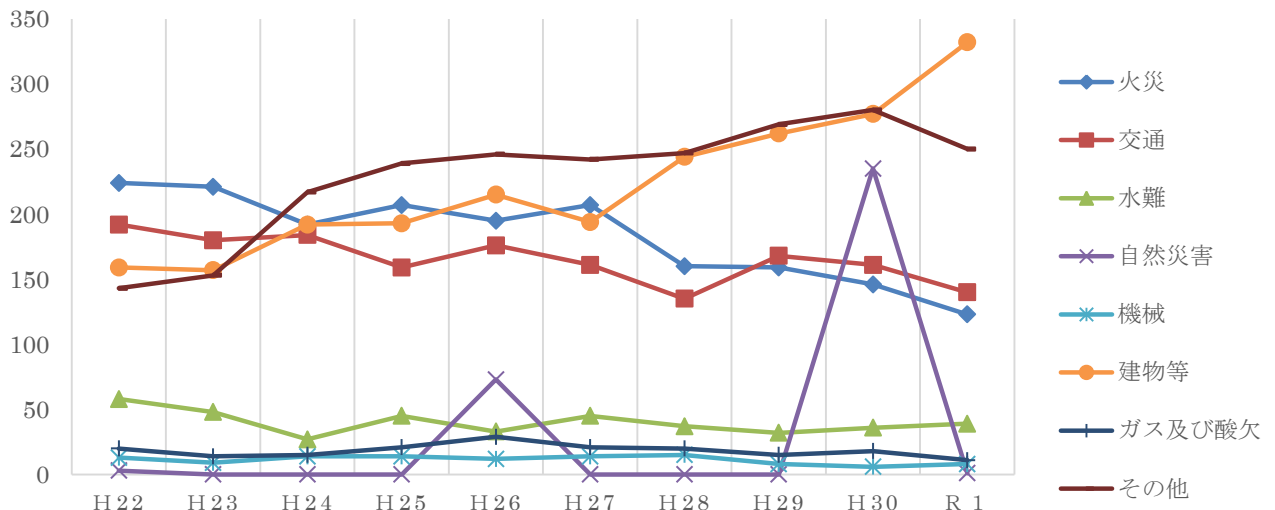


2 過去10年間の救助件数の推移

過去10年間の救助件数の推移をみると、平成22年の812件に対し約11%の増加となっている。

年別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
救助件数	812 (100)	782 (96)	841 (104)	878 (108)	979 (121)	884 (109)	858 (106)	913 (112)	1,159 (143)	904 (111)	
内 訳	火災	224 (100)	221 (99)	192 (86)	207 (92)	195 (87)	207 (92)	160 (71)	159 (71)	146 (65)	123 (55)
	交通事故	192 (100)	180 (93)	184 (96)	159 (83)	176 (92)	161 (84)	135 (70)	168 (88)	161 (84)	140 (73)
	水難事故	58 (100)	48 (83)	27 (47)	45 (78)	33 (57)	45 (78)	37 (64)	32 (55)	36 (64)	39 (70)
	風水害等 自然災害	3 (100)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	73 (2,433)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	235 (7,833)	1 (33)
	機械に よる事故	13 (100)	9 (69)	14 (108)	14 (108)	12 (92)	14 (108)	15 (115)	8 (62)	6 (46)	8 (62)
	建物等に よる事故	159 (100)	157 (99)	192 (121)	193 (121)	215 (135)	194 (122)	244 (153)	262 (165)	277 (174)	332 (209)
	ガス及び 酸欠事故	20 (100)	14 (70)	15 (75)	21 (101)	29 (145)	21 (101)	20 (100)	15 (75)	18 (90)	11 (55)
	その他の 事 故	143 (100)	153 (107)	217 (152)	239 (167)	246 (172)	242 (169)	247 (173)	269 (188)	280 (196)	250 (175)

【備考】 () 内は、平成22年を指数100として表した数値である。



救急 - Ambulance -



1 令和元年中の救急出動件数の推移

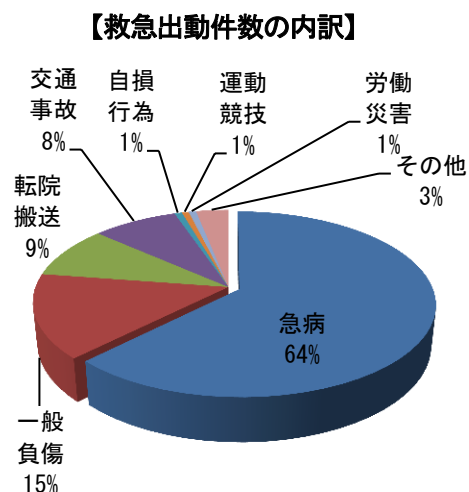
令和元年中の出動件数は、60,907件で、前年と比較すると958件(1.5%)減少し、搬送人員は51,295人で488人(0.9%)の減少であった。これを一日に平均すると約167件出動し、約141人搬送したこととなり、約9分に1件の割合で救急出動がされたこととなる。

事故種別でみると、「急病」が39,036件で最も多く、全体の約6割を占めており、前年と比較して343件の増加となった。次いで多いのは「一般負傷」で9,159件、「交通事故」は4,686件となっている。前年と比較して「一般負傷」は7件の減少、「交通事故」は418件の減少となっている。

平成12年4月1日からはヘリコプターによる救急搬送業務を開始しており、令和元年中は64件救急出動し、35人の搬送を行っている。



区分	年別	R元年	H30年	増減	増減率
出動件数		60,907	61,865	△958	△1.5%
急病		39,036	38,693	343	0.9%
一般負傷		9,159	9,166	△7	△0.1%
転院搬送		5,269	5,664	△395	△7.0%
交通事故		4,686	5,104	△418	△8.2%
自損行為		460	445	15	3.4%
運動競技		322	410	△88	△21.5%
労働災害		425	443	△18	△4.1%
その他		1,550	1,940	△390	△20.1%
搬送人員(人)		51,295	51,783	△488	△0.9%



※ 割合は小数点を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

2 過去の10年間の救急件数の推移

区分	年別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
出動件数		51,565 (100)	52,616 (102)	53,500 (104)	55,448 (108)	56,045 (109)	57,746 (112)	57,978 (112)	59,752 (116)	61,865 (120)	60,907 (118)
急病		29,894 (100)	30,928 (103)	31,545 (106)	32,856 (110)	33,365 (112)	35,215 (118)	35,733 (120)	36,760 (123)	38,693 (129)	39,036 (131)
一般負傷		7,119 (100)	7,346 (103)	7,655 (108)	7,972 (112)	8,257 (116)	8,257 (116)	8,458 (119)	9,027 (127)	9,166 (129)	9,159 (129)
交通事故		6,263 (100)	6,200 (99)	6,041 (96)	6,202 (99)	5,842 (93)	5,653 (90)	5,420 (87)	5,301 (85)	5,104 (81)	4,686 (75)

【備考】 ()内は平成22年を指数100として表した数値である。